



第5章 地域連携センターを拠点とするプロジェクト

吉川, 圭太
井上, 舞

(Citation)

歴史文化に基礎をおいた地域社会形成のための自治体等との連携事業, 17 (平成30年度事業報告書) :51-52

(Issue Date)

2019-03-22

(Resource Type)

report part

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81012148>



第5章

地域連携センターを拠点とするプロジェクト

平成 27 年度科学研究費補助金基盤研究 (S)
「災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立—
東日本大震災を踏まえて」の研究支援

2014 年度からスタートした上記テーマの新規
科学研究は、2013 年度までの科学研究「大規模
自然災害時の史料保全論を基礎とした地域歴史資
料学の構築」の成果を踏まえ、東日本大震災後の
新たな課題（津波、放射能被害など）及び海溝型
地震への対応をさらに進め、「災害文化」形成に
資する地域歴史資料学を確立することを目的とし
ている。

最終年度となる 2018 年度は、2019 年 2 月 4
日に第 14 回地域歴史資料学研究会（第 8 回被災
地図書館との震災資料情報交換会、於神戸大学
社会系図書館）を開催した。また、2018 年 4 月
8 日に科研グループ研究会（於神戸大学文学部）、
12 月 8 日に科研グループ総括研究会（於三宮研
修センター）を開催した。

また、本年度は本科研グループとして次のシン
ポジウム等に共催した。共催としては、①ふくし
ま史料ネットシンポジウム「ふくしまの未来へつ
なぐ、伝える II」（4 月 21 日、於郡山市民プラザ）、
②フォーラム「福島震災遺産と震災アーカイブ
ズの構築」（4 月 30 日、於筑波大学東京キャン
パス文京校舎）、③歴史文化資料保全の大学・共同
利用機関ネットワーク事業「歴史文化資料保全西
日本大学協議会」（9 月 24 日、新大阪丸ビル新館）、
④第 5 回全国史料ネット研究交流集会（11 月 17
～18 日、於新潟大学中央図書館ライブラリーホー

ル）、⑤地域歴史文化大学フォーラム「大学間連
携の展望—歴史文化資料保全 NW 事業の役割—」
（12 月 9 日、於神戸大学瀧川記念学術交流会館）、
⑥第 17 回歴史文化をめぐる地域連携協議会（2
月 3 日、於神戸大学瀧川記念学術交流会館）。

被災資料・歴史資料の調査保全としては、歴史
資料ネットワークなどと協力し、西日本豪雨災害
の被災資料保全に対応したほか、大阪北部地震
及び台風 21 号被害の情報収集と調査保全をおこ
なった。また、東日本大震災で津波被害をうけた
岩手県大船渡市 S 家資料の整理作業に協力した。
前年度より愛媛資料ネットと協力して進めている
伊方原発関係資料の保存・整理作業については、
本年度は人間文化研究機構の歴史文化資料保全の
大学・共同利用機関ネットワーク事業とも共同し
て実施した。

（文責・吉川圭太）

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)
「地域創生に応える実践力養成ひょうご神戸プラットフォーム」

平成 27 年度より 5 カ年計画で開始した地(知)
の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)
「地域創生に応える実践力要請ひょうご神戸プラットフォーム」
について、ここでは地域連携センター
を拠点に活動してきた「歴史と文化」領域に関し
て述べる。

本年度の活動も、地域連携センターの諸活動と

密接にリンクする形で展開した。なかでも COC +事業と密接に関わった事業としては、

- ①歴史文化を巡る地域連携協議会の開催
 - ②文学部・大学院人文学研究科における学生向け・市民向け地域志向プログラム（地域歴史遺産保全活用基礎論 A・B、地域歴史遺産活用演習、まちづくり地域歴史遺産活用講座、同講座オプションプログラム古文書解読初級講座の開講
 - ③兵庫県防災研修会開催にかかる連絡会の開催
 - ④『地域歴史遺産と現代社会』の活用
- などが挙げられる。

このほか、7月16日に園田学園女子大学において、大学COC+シンポジウム「日本遺産」と地域歴史遺産」が開催され、パネラーとして井上舞が「銀の馬車道」と生野の地域歴史遺産」と題する報告を行った。また兵庫県内の就職活動を支援するラジオ関西の「ネイビーズアフロのレディGO!HYOGO」に出演し（12月18日OA）、事業の概要等について説明した。